

第五期武藏野市コミュニティ評価委員会による報告について

1 コミュニティ評価委員会報告書の概要

(1) コミュニティ評価委員会の役割（報告書2ページ）

- ① コミュニティ協議会（以下「協議会」という。）の取組みを広く周知し、市民活動の要素として一層開かれたものとする。
- ② 各協議会が自らの取組みを振り返り、また、他の協議会の状況を知ることによって、新たな気づきや学び、今後の活動の発展につなげる。

(2) 評価・考察の視点（報告書3～4ページ）

以下の5つの視点に基づき、各コミュニティセンター（以下「コミセン」という。）に関する利用者アンケート調査、無作為抽出アンケート調査、各協議会との意見交換会、各コミセンの視察等を踏まえ、考察を行った。

- ① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上
- ② 地域におけるネットワーク機能
- ③ 持続可能な協議会の運営
- ④ 適正な運営
- ⑤ 施設・設備の管理

(3) 評価の結果（報告書21～50ページ）

以上の視点に沿って、①から③までの項目については、各協議会から聞き取った現状の取組みや考えを記載し、第五期武藏野市コミュニティ評価委員会（以下「評価委員会」という。）の総括及びコメントを取りまとめた。④と⑤については、別途ヒアリング調査を実施し、いずれの協議会においても適切に取り組んでいることが確認された。

(4) 総評（報告書51～57ページ）

① 全体に共通する事項について

1) 協議会に対する市民の理解

- ・ コミセンが独自で運営されている趣旨が市民・利用者に必ずしも十分に伝わっていない現状があり、市職員もコミセンへの理解を深めてほしいとの意見が協議会から出ている。
- ・ 協議会は引き続き周知を行うと同時に、行政も本市のコミュニティの位置づけや意義を発信し、その意義を正しく理解し率先して尊重すべきである。

2) 協議会運営のあり方について

- ・ パソコン操作等のスキルが運営委員によって違い、事務の集中する時期があることから、効率的で負担感の少ない運営のあり方を模索する必要がある。

- ・市と協議会の安定した関係性の構築に向け、コミセンでの職員の研修やイベント体験等を検討されたい。
- ・各コミセンの利用ルールの違いについて、その有効性や一定の共通化を検討してみることも価値がある。

3)人材の確保について

- ・やりがい、魅力などのアピールや様々な経路での参加の呼びかけを期待する。
- ・窓口手当は、有償ボランティアの意味を改めて確認するとともに、定期的に見直す必要がある。

4)協議会同士の情報共有

- ・各協議会による好事例やノウハウを各協議会間で情報共有し、活用できるような仕組みがあると良い。
- ・各協議会の取組みを調査・収集し、各協議会にフィードバックできる仕組みを検討してほしい。

② 行政に対する提言について

- ・コミュニティづくりの理念と経緯をより深く理解したうえで、現場で触れ合う市民と協働することが求められる。
- ・本市のコミュニティの独自性について、市民への理解促進の取組みをさらに工夫する必要がある。
- ・協議会の活動の持続性のための支援や市の部署間での調整が今後も必要である。

③ 市民への提言について

- ・コミセンは利用者と同じ市民が運営する施設であり、今一度コミセンの目的を再確認してほしい。
- ・コミュニティづくりに関わっている市民と、その他の市民とで意識のギャップがあるならば、それは様々な対話と、市民参加の経験を通じてそのギャップについて理解し、可能であればその解消を進めていく必要がある。
- ・まずはコミセンを知り、使ってみること等をきっかけに地域の一員として関わる市民が増え、さらにコミセンの活動を創っていただけることが、評価委員会の希望である。

2 今後のスケジュール

3月15日号市報にて報告書の公表を周知（市ホームページで公表）